

公益財団法人まちみらい千代田
第4期 第4回 評議員会 議事録

1 日時

平成29年5月23日（火）午前10時00分～午前11時35分

2 場所

ちよだプラットフォームスクウェア 4階401会議室

3 評議員現在数

11名

4 出席者

(1) 評議員出席者（9名）

野本俊輔会長、鎌倉勤、熊谷エイ、澤崎宏、瀬川昌輝、高橋陽子、谷真理子
山口修一、山本久喜 [欠席者 鈴木潔副会長、志摩雅子]

(2) 理事（2名）

山崎芳明理事長、鈴木秀人副理事長

(3) 事務局（5名）

立川資久事務局長、本郷友孝グループマネージャー(GM)、加藤英明GM
金子辰夫GM、伊澤優GM

※なお、前回の評議員会で選任された、松本博之理事と河合芳則監事がオブザーバーとして出席した。

5 議題

- (1) 議案 第6号 公益財団法人まちみらい千代田 第5期事業計画（案）について
- (2) 議案 第7号 公益財団法人まちみらい千代田 第5期収支予算（案）について

6 開会、挨拶、定足数確認、議事録署名人の選任

開会に先立ち、事務局が配付資料の確認を行った。定款第25条により評議員会の議長を

務める野本会長が開会を宣言し、山崎理事長に挨拶を求めた。山崎理事長の挨拶後、4月21日開催の第4期第3回評議員会で新たに選任された松本理事、河合監事が挨拶を行った。出席者について事務局から報告し、定款第26条の規定に定める定足数を満たしていることを確認し、本評議員会が有効に成立している旨を告げた。

次に本評議員会の議事録署名人として、事務局から定款第30条第2項の規定により、本日出席の瀬川評議員と谷評議員の2名を提案したところ、満場一致の賛成があり、議長が両評議員を指名したところ、本人もこれを承諾した。その後、議事に入った。

7 議事の経過及び結果

- (1) 議案 第6号 公益財団法人まちみらい千代田 第5期事業計画（案）について
- (2) 議案 第7号 公益財団法人まちみらい千代田 第5期収支予算（案）について

議長から議事の審議に入る前に議案第6号及び議案第7号については双方関連があるため一括上程し、審議を行いたい旨を提案したところ、全員異議なく了承したため、配布資料に基づき、第5期の事業計画（案）と収支予算（案）について説明した。

第5期事業計画（案）については、立川事務局長から、概要、事業体系、事務局組織について説明した後、各GMから担当事業について、それぞれ説明した。

第5期収支予算（案）については、立川事務局長から前期との比較をしつつ予算案を説明し、財団の予算執行に当たっては、千代田区と連携、協力のもとに健全、明瞭な運営に努めることを説明した。

第5期の事業計画（案）及び収支予算（案）を一括して諮ったところ、全員異議なく議決した。

なお、その際、以下のような質疑や意見があり、最後に山崎理事長から、指摘や提案された事項については、真摯に受け止め検討していく旨述べた。

(評議員)

理事会で承認された際の特徴的な意見は何か。

(事務局)

内容確認についての質疑（ビジネス起業塾の修了生の起業者総数、総合相談窓口におけるマンション相談事例、マンションの高齢化対策・相談）のみで修正意見はなかった。

(評議員)

築35年以上のマンションは海外の基準でいえば高経年とは言わない。基準を60年ぐらいにしたらどうか。

(評議員)

法令の関係上、そのような表記になっていると思う。過去のコンクリートは劣化しやすい(200年耐えるコンクリートもある)。施工方法の基準改正等も国で検討されている。

(事務局)

新耐震基準の制定が約35年前ということもある。

(評議員)

全体を見渡すと予算配分が細かすぎて、事業のインパクト、千代田区らしさに欠ける。目玉事業を作るのも必要と考える。参加率が0の事業は、改善が必要ではないか。

(評議員)

管理会社との連絡会、マンション連絡会の参加率が低い。義務化とまでは言わないが参加率を高めるための工夫は必要。

(事務局)

マンション連絡会に限っていえば、千代田区内のマンション440棟のうち、登録しているのが約100棟で情報交換会には毎回20人前後が参加している。参加者も同じ人ではなく、入れ替わりで各マンションの理事長等が参加しており、登録約100棟のうちの4割が参加していると考えれば、少ないとは思わない。

マンション関連の助成を受けるために会に入るが、連絡会には参加したくないという人もいる。

(評議員)

東京都中小企業振興公社のように専門家派遣はもっとアピールが必要。また、商工団体連携強化連絡協議会はイベントナビのことだけのための会議体ではない。もっと違うことも議論すべきではないか。

(評議員)

全体の事業体系についてハード・ソフト面で分けているような印象を受ける。だから参加率0の事業があるのではないか。例えば、産業まちづくり事業、協働まちづくり事業が連携することで新しいものが生まれ、参加率0の事業の解消にもつながるのではないか。事業体系全体の見直しを含め、1つの事業を各グループで連携することが必要。

役員も大手企業だけではなく、地域に根付いている信用金庫に勤めているような方に入っ
ていただくのがいいのではないかと。

(評議員)

千代田区は大学多いので、大学連携や若者を取り込んでいくような仕掛けが必要ではない
か。区民・大学・行政が連携することで、さまざまな課題、問題が解決できる。

民泊・省エネ・環境問題等がある中で、まちみらい千代田が千代田区の問題を抽出し
改善できるような組織になってほしい。

(事務局)

民泊については、法律が制定されると千代田区でも条例化が検討され、一定の歯止めが
かかると思う。

千代田まちづくりサポート事業では、若者の参加も多く、学生が地域住民と共同で応募
してきた実績がある。また大学との連携では、区で行っている千代田学や千代田エコシス
テム（CES）等があるが、CESにはまちみらい千代田も役員として参加している。

(評議員)

千代田ビジネス大賞の受賞企業は賞を受賞したら関係は終わってしまうのか。賞をもら
って終わりではなく、事業へ参画していただけるような関係を築いてほしい。受賞企業同
士が千代田区をよくしていただける仕組みを作してほしい。

(事務局)

受賞企業には、できるだけ賛助会員となり、まちみらい千代田と一緒に活動して欲しい
旨お願いしている。過去には千代田区の幹部職員の研修講師として講演を行って頂いたこ
ともある。また、まちみらい千代田では、受賞企業のイベントを取材し、広報紙等で随時
紹介している。こうしたことで、まちみらい千代田との関係が全く無くなるようなことは
ないが、今後は受賞企業同士が交流を図れるような取組みを検討していきたい。

(評議員)

賃貸マンションの数は把握しているのか。

(事務局)

約300棟あることは認識しているが、正確な数字は把握していない。

8 閉会

以上をもってすべての議事を終了したので、午前11時35分に議長は閉会を宣言した。

上記の決議を明確にするため、議長及び評議員がこれに署名、押印する。

平成29年5月23日

公益財団法人まちみらい千代田
第4期第4回 評議員会

議 長 野 本 俊 輔 ⑩

議事録署名人 瀬 川 昌 輝 ⑩

議事録署名人 谷 眞 理 子 ⑩